障がい者福祉の充実を

池永　幸生　議員

池永　合志市住民の約5％の方が身体、知的、精神の障害者手帳を所持されている。平成18年にそれまでの制度の財源困難や、整備の不都合で障害者自立支援法が施行されたが、課題があるのでは。

健康福祉部長　利用者に応益負担が生じたりサービス提供事業所の収入減などの問題がある。法の見直しや負担減、人材確保に取り組まれているが、政権交代に伴い法の廃止、利用者の応能負担を基本として新たな制度の検討が行われている。

池永　市町村に、障がい福祉計画の中に地域生活支援にかかる政策の盛りこみを計るようになっている。ボランティアを利用した取り組みも必要と思われる。障がい福祉への取り組みがまだ十分とは思えない。支援する場所等の設置を願いたい。

健康福祉部長　市独自のサービスとして外出支援サービス事業や紙おむつ支給事業、非課税の場合、利用者負担を無料にしている。地域の取り組みとしてはボランティアの方の専門的知識の養成、社会福祉協議会や施設との連携を進めていかなければと思う。障がい者の方が家庭に閉じこもってしまわれないよう安心して集える居場所作りが重要と思われる

池永　障がいのある方への差別、偏見をなくすためにも幼少期からの教育が大事と思う。国連の障害者権利条約にも差別の禁止が謳ってある。

教育長　障がい教育はこれまで紆余曲折あったが、今の特別支援教育が障がいのある子どもと健常者を一緒にするのが良いと思い推進している。

健康福祉部長　国でも障がい者の権利条約の締結に必要な法の整備が検討されている。

池永　市長の施策方針に「私の政治の原点は障がい者福祉」と言われていたが。

市長　秘書時代、就職支援に携わり現実的な矛盾を感じた。これから自立支援、生活支援に取り組む。

障がい福祉 車椅子

選挙公約は実現できるのか

坂本　早苗　議員

女性センター「かすみ草館」開設

坂本　マニフェストでは2つの歴史資料館を統合して、不要となった施設に女性センターを設置するとあるが、資料館の統合が簡単にできるのか。

教育長　教育委員会の中の文化財保護委員会で検討したが、それぞれの思いが強く1つにまとめるのは困難な現状である。

坂本　改修費1千万円で2年以内に実施するとあるが、実現可能か。

市長　2年の範囲内で検討し、答えを出すよう取り計らっていきたい。

右　合志資料館
上　西合志資料館

土・日に市役所や出先機関で手続きができます

坂本　10月より日曜日の窓口を試行的に開設することが市長より表明されました。水曜日の夜間開庁をやめて、日曜日の午後1時まで合志庁舎を開ける計画です。土・日に出先機関で手続きできると書いていた公約とは大きな差があるのでは。

市長　職員との話し合いの中で今回の提案とした。半年間実施し、その結果によって段階的に進めていきたい。

合志市健康総合グランドの整備促進

坂本　この事業は既存のグランドの整備なのか、あるいは新たに用地を確保して新設のグランドを作るのか。

市長　現状の施設整備状況をしっかり見て、将来的に新しいものを作るという考えも持っている。

収入役の廃止（年間1000万円）

坂本　地方自治法の改正により新たに収入役を配置することは認められていない。にもかかわらず公約として掲げた理由は。

市長　皆様方が誤解をしたということならば改めてお詫びを申し上げたい。

所信表明について

松井美津子　議員

松井　「健康都市こうし」をめざすについて、命を守る立場で不育症や子宮頸がんワクチンの公費助成に前に進む必要がありますが。

健康福祉部長　財政の問題があるので立体的に考えていく。

松井　子育て支援日本一について、予算のかからない市民の知恵を結集して読書の町づくり宣言を提案してきましたが。

市長　読書宣言、その方向に向けてご一緒に運動していきたい。

松井　公務員の持ち家手当てについて国から廃止の勧告があっているが、公務員は市民に雇われているという職の認識からいえば本市が1番に取り組むべきですが。

市長　将来、廃止という形にいきますが組合の皆様方と話し合いもしてほしいと指導しました。

松井　人権問題について先日のハンセン病の講演での市長の率直な感想を伺う。

市長　理解をしても、交流する、触れ合うことにより、啓発が一歩も二歩も理解が深まる。入所者の皆様方と交流を通して本当の意味での支援が出来るように頑張る。

松井　中1ギャップの解消について伺う。

教育部長　不登校、問題行動などの問題解決にあたるソーシャルワーカー活用事業をさせている。

松井　発達障がいの生徒のための学習支援（マルチメディア・デイジー）についての見解を伺う。

教育部長　デイジー図書につきましては積極的に対応を進めてまいりたい。

松井　セカンドブック事業の取り組みを。

教育部長　今のところ考えていない。

読書の町づくりに向けて

電鉄御代志駅（駐輪場）に防犯灯の設置を

松下　広美　議員

松下　マニフェストの実現に向けて市長の意気込みは。

市長　マニフェストは40項目の事業と7項目の夢を掲げております。予算が伴うものは補助金の獲得に努力し、夢的な項目は市民運動を喚起し協力を求めて行きたい。

松下　公約で本年度の重点施策は。

市長　これからの合志市のまちづくりを進めるための組織機構を見直しまちづくり戦略室を設置すること。

松下　市政座談会の進め方を伺う。

市長　地域の会合をとらえて、そこに出向いて行き多くの意見等を聞くような座談会を開く。

松下　明るい職場の環境づくりをどのように考えておられるか。

市長　パソコンを利用して、職員からのメールが届きます。それを見て全部回答している。職員は聞いてもらった喜びをもらうことで職員とのコミュニケーションを図っている。

安心・安全なまちづくりのために

松下　防犯灯の設置について市の対応を伺う。

総務企画部長　通学道路が暗いところは、防犯灯の必要性を判断したときは設置している。

松下　電鉄御代志駅構内で駐輪場付近は夜は暗くて犯罪が発生した経緯がある。再発防止のために防犯灯の設置を急ぐ必要があり対策を伺う。

総務企画部長　熊本電鉄とも協議したが道路改修の計画があるため、防犯対策の考えはないとの事であったため、市で早急に対応したい。

松下　県議時代九州沖縄農業研究センターを移転させたいと言われていたが市長になって今の考えを伺う。

市長　移転とか移動ということではなく一緒に使うような事でセンターを含む県有地についての土地利用検討委員会をできれば県市で立ち上げることができないか、県に申し入れをしている。